



学校だより

新潟市立中之口東小学校 2026. 5. 29
第397号 子ども数104名
ホームページ
<https://www.kiranico.jp/>



は 晴れと褻

校長 小森 康貴

「晴れと褻」という言葉があります。「晴れ」とは特別な日を指します。旅行に行ったりご馳走を食べたりする非日常の時間です。「褻」とは普段の生活を指します。いつも通りに起きて、仕事や学校に行き、いつも通りの食事をする日常の時間です。私も含め、誰もが「晴れ」を楽しみにして生活しています。しかし、「晴れ」を楽しむために「褻」を蔑ろにしてはいけないと思います。例えば、1年に2回の旅行のために、過度にお金を節約したり、日々が荒んだ生活になったりしている状態です。私は、「晴れ」も大切ですが、それ以上に、日常に小さな喜びを見つけ楽しむことが大切だと思います。「晴れ」は1年に数回しかありませんが「褻」は1年の大半です。人生は、ほぼ「褻」の繰り返しです。

その考え方は、学校生活も同様です。学校生活における「晴れ」は、修学旅行や自然教室、遠足などの行事が該当します。「褻」は授業や清掃、給食などが該当します。行事を楽しむために、日々繰り返される教育活動を蔑ろにしてはいけないと思います。例えば、運動会の練習のために、過度に体育授業を増やしたり、休み時間も返上で応援練習をしたりするといった状態です。行事も楽しみですが、「給食で大好きなメニューがある」「休み時間にドッジボールをする」といった日々繰り返される日常に小さな喜びを見つけ楽しんでほしいと思います。

日々繰り返される教育活動の中でも授業が圧倒的に多く、学校生活の大半を占めます。まさに学校生活の「褻」の代表です。日々繰り返される授業は、多くの子どもにとって退屈で、楽しくない時間です。しかし、私は、授業こそ楽しい時間であるべきであり、授業を楽しみにできる子どもを育てたいと思っています。

子どもが授業を楽しいと思う要因はいくつかありますが、最も重要な要因は「分かる」「できる」ことです。運動が得意な子どもは体育が好きです。同様に、歌や楽器が得意な子どもは音楽が好きです。絵が上手な子どもは図工が好きです。まれに例外がありますが、多くの子どもは得意な教科は好きです。しかし、すべての教科が得意という子どもは、ごく少数です。大半の子どもは、苦手な教科ばかりです。そのような子どもに対して、苦手な教科でも楽しいと感じさせるためには、授業で「分かった」「できた」という思いをもたせることが重要です。

そのために、先生方には「1時間の授業で何が分かり、何ができるようになるのか明確にして授業に臨んでください」と繰り返し伝えていきます。また、しっかりと授業の準備ができるように働き方改革を進めています。さらに、協働的な学習を通して子どもの「分かった」「できた」を生み出す方策について研修を行っています。

子どもの学力を向上させるのは学校の責務であり、授業でしか学力を向上させることはできません。中之口東小学校の教員は、子どもの「分かった」「できた」を1つでも多く生み出せるように、日々、授業力向上に努めています。そして、子どもたち全員が、授業が楽しいと思える学校をめざします。